

相模原市で採集された東日本初記録の カドムネヒラタカメムシ (カメムシ目ヒラタカメムシ科)

嶋本 習介¹・松本 健児²・岩崎 響亮³

¹相模原市立博物館 ²群馬県藤岡市 ³東京農業大学農学部昆虫学研究室

First distributional record of *Odontonotus sauteri* (Hemiptera, Aradidae) from eastern Japan

SHIMAMOTO Shusuke¹, MATSUMOTO Kenji² & IWASAKI Kyosuke³

¹Sagamihara City Museum ²Fujioka City, Gunma Pref. ³Laboratory of Entomology, Tokyo University of Agriculture

ヒラタカメムシ科に属するカドムネヒラタカメムシ *Odontonotus sauteri* Kormilev, 1955 は、黄褐色の短毛による頭胸部の明色斑や胸部側縁の鋸歯状突起といった形態的特徴により、日本産本科のなかで容易に識別される種である。本種は、日本およびタイ産地の台湾のほかに、マレーシアにも産するとされる (Heiss, 2001) 広域分布種である。国内では、俵 (1977) により初めて報告されて以降、現在では本州、四国、九州、下甌島、屋久島における分布が確認されている (日本昆虫目録編集委員会, 2016)。一方で本種は稀な種とされ (長島・庄野, 2012)、その報告例は少なく、九州地方周辺に偏っている (例えば、小松, 2012; 野崎ら, 2015; 伊藤, 2023)。本州では、長島・庄野 (2012) に図示された奈良県春日山産の個体が知られるのみであり、東日本からの記録はない。

筆者らは、神奈川県相模原市において採集された本種の標本を検しているため、本種の東日本における初記録として報告する。

検視標本は神奈川県立生命の星・地球博物館 (KPMNH) および相模原市立博物館 (JSCM) に保管されている。なお、蛭ヶ岳産の標本は神奈川県レッドデータ調査昆虫部会の成果の一部であり、先行的に報告されるものである。

検視標本データ 1 ♀ (図1), 相模原市緑区青山 (Sagamihara-shi, Midori-ku, Aoyama), 13. VI. 2021, 松本健児採集 (JSCM-NK-80686); 1 ♀, 相模原市緑区蛭ヶ岳 (Sagamihara-shi, Midori-ku, Mt. Hirugatake), 20. VII. 2024, 岩崎響亮採集 (KPMNH).

青山の個体が採集された地点は標高約 540 m の山林で、スギ・ヒノキの人工林とヤマザクラやイヌシデ、アカマツ、モミ等の混交林が隣接する環境である (図3)。同地では NPO 法人森づくりフォーラムが森林を管理しており、同団体による昆虫相調査活動中に偶然ビートングネット

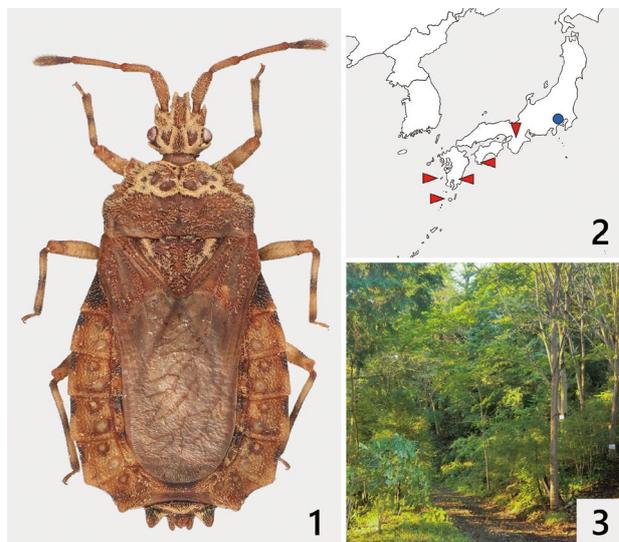


図1. 相模原市産カドムネヒラタカメムシ *Odontonotus sauteri*; 図2. 国内での記録地 (丸: 相模原市緑区; 三角: 既記録地); 図3. 採集地 (緑区青山) の環境。

に飛来したところを採集した。蛭ヶ岳の個体が採集された地点は標高約 1500 m のブナ帯である。尾根筋から僅かに離れた斜面の林内において、サワグルミ *Pterocarya rhoifolia* Siebold & Zucc. とされる倒木の、腐朽の進んだ樹皮下から採集された。なお、同時に本種と思われるヒラタカメムシ類の成虫および幼虫が複数個体観察された。

本種の属するカドムネヒラタカメムシ属 *Odontonotus* は東アジアから東南アジアにかけての地域から知られるグループである。同属のうち本種は最も北にまで分布する種であるものの、現在までの分布的知見からは、本種は南方系の分布パターンをもつ種とされてきた。今回、本種が相模原市で複数回採集されたことおよび高標高のブナ帯でも確認されたことにより、本種が本州のより広い範囲に分布することが示唆された。

今回検視した2個体はいずれも、淡い体色を呈し腹部の側背板が比較的幅広といった形態的特徴を有していた。なお、日本産の本種については、検視個体と類似し

た外見のもの (cf. 俵, 1977 (図 13); 長島・庄野, 2012 (図 227b)) のほか、濃い体色を呈し腹部の幅が比較的狭いもの (cf. 小松, 2012 (図 6); 長島・庄野, 2012 (図 227a, c); 野崎ら, 2015 (fig. 21); 伊藤, 2023 (Fig. 2)) も図示されており、より多くの標本の検視にもとづく外部形態の比較検討が必要であると考えられる。

引用文献

- Heiss, E., 2001. Superfamily Aradoidea. Aukema, B. & C. Rieger (eds.), *Catalogue of the Heteroptera of the Palearctic Region. Vol. 4, Pentatomomorpha I*, pp. 3-34. The Netherlands Entomological Society, Amsterdam.
- 伊藤玲央, 2023. ヒラタツチカメムシのヒラタカメムシ類に対する捕食性. *Rostria*, (68): 56-59.
- 小松孝寛, 2012. カメムシの記録. タテハモドキ, (48): 1-15.
- Kormilev, N.A., 1957. Notes on Aradidae from the Eastern Hemisphere XIV. Aradidae from the Oriental and Australian Regions IX, *Annals and Magazine of Natural History*, 10(112): 265-273.
- 日本昆虫目録編集委員会 編, 2016. 日本昆虫目録 第4巻 準新翅類. xxxiii + 629 pp. 日本昆虫学会・権歌書房, 福岡.
- 長島聖大・庄野美徳, 2012. ヒラタカメムシ科. 日本原色カメムシ図鑑, 第3巻, pp. 289-314. 全国農村教育協会, 東京.
- 野崎達也・野崎陽子・宇木浩太・塚田 拓, 2015. 鹿児島県下甌島の異翅亜目. *Rostria*, (58): 1-40.
- 俵 慧, 1977. 宮崎県北部のカメムシ [分布資料 II]. タテハモドキ, (12): 1-37.